

タビニとゴトニの機能と解釈

言語学 4 年 久永知美

1. 「A タビニ B」文の性質

- (1) A は**複数回**発生するものでなければならない
 - a. [A 子どもが 20 歳を迎える]たびに家族旅行に出かける。
 - b. ??[A 太郎が 20 歳を迎える]たびに家族旅行に出かける。
- (2) A と B は、**毎回共起する**デキゴトでなければならない
 - a. [A 練習に参加する]たびに[B 新しい友達をつくる]。
 - b. ??[A 練習に参加する]たびに[B 仲間の輪に溶け込んでいく]。
- (3) A と B が毎回共起することが不自然な場合には、容認性が低い
 - a. ??5 年経つたびに太郎が 20 歳を迎える。
 - b. ??一口食べるたびにおなかが限界に近づく。
 - c. ??大会の日が近づくたびに緊張が高まる。
 - d. ??坂を下っていくたびに視界が開けてくる。
- (4) A と B が毎回共起可能ならば、容認可能になる
 - a. バスに乗るたびに寝過ごしてしまう。
 - b. 散歩に出かけるたびにあの犬と出くわす。
 - c. 洗濯をするたびに雨に降られる。
 - d. あの事件を思い出すたびに胸が痛む。

2. 「A ゴトニ B」文の性質 1

- (5) A は**複数回**発生するものでなければならない
 - a. 太郎は失敗を経験するごとに成長していく。
 - b. ??太郎は 20 歳を迎えるごとに成長していく。
- (6) A の発生に伴って、B の度合いが**段階的に進展する**ものでなければならない
 - a. 大会の日が近づくごとに緊張が高まる。
 - b. ??大会の日が近づくごとに緊張が生じる。
- (7) B の度合いが段階的に進展すると解釈するのが難しい場合には、容認性が低い
 - a. ??坂を下っていくごとに視界が開ける。
 - b. ??ダイエットをするごとにやつれる。

- c. ??一口食べるごとにおなかが限界になる。
 - d. ??練習を重ねるごとにみんなの息が合う。
- (8) Bの度合いが段階的に進展すると解釈できる場合には、容認可能
- a. 改良を重ねるごとに性能が上がる。
 - b. 雨が降るごとに暖かくなっていく。
 - c. 洗濯するごとにしみが薄くなっていく。
 - d. 坂を下っていくごとに視界が開けてくる。

3. 「A ゴトニ B」文の性質 2

ただし、(7)の反例に見える例がある。

- (9)
- a. 体重をはかるごとに記録をつける。
 - b. 1つ単元が終わるごとにテストをする。
 - c. 注文が入るごとに料理を作る。
 - d. 季節が変わるごとに店内のディスプレイを変える。
 - e. 100日経過するごとに検査を行う。

これらの「反例」に共通するのは、Bが意図的・意識的にAと毎回共起するものだということである。次のように、Bが意図的・意識的な行為でない場合には、やはり(7)が適用する。

- (10)
- a. ??体重をはかるごとにショックを受ける。
 - b. ??バスに乗るごとに寝過ごしてしまう。
 - c. ??洗濯をするごとに雨に降られる。
 - d. ??あの事件を思い出すごとに胸が痛む。
 - e. ??飲み会に参加するごとに途中で記憶がなくなる。

つまり、ゴトニには、2節で述べた「変化のゴトニ」だけでなく、(9)のような「意図のゴトニ」の2つの用法があると考えられるべきである。ちなみに、「意図のゴトニ」でも、Aが複数回発生する必要がある点は、「変化のゴトニ」と同様である。

(11) 「意図のゴトニ」

- a. 子どもが20歳を迎えるごとに家族旅行に出かける。
- b. ??太郎が20歳を迎えるごとに家族旅行に出かける。